

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年3月23日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0873300511		
法人名	有限会社カサブランカ		
事業所名	グループホーム カサブランカ大宮	ユニット名	新館
所在地	〒319-2135 茨城県常陸大宮市石沢1595		
自己評価作成日	平成26年9月15日	評価結果 市町村受理日	平成27年 4月 6日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&JigyosyoCd=0873300511-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成26年11月6日	評価機関 決 済 日	平成27年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>■特に力を入れている点</p> <p>①基本理念でもある「アットホームな雰囲気」作りを重視している。また、笑顔でゆとりある介護を職員全員が意識して利用者と接することを目指している。</p> <p>②高いレベルでの介護を実践するため、特に社員は全員、介護福祉士の資格、介護支援専門員又は社会福祉士の資格を取得するなど常に向上意欲を持つように心がけている。</p> <p>■アピールしたい点</p> <p>他の施設とは異なり、家族経営の施設で、社長の娘3人とその夫が中心となり施設運営をしている。職場でもあり、家族が集う場所でもあり、それぞれの子供（幼稚園～高校生まで）が施設内で普通に食事したり、遊んでいたりと家庭的な雰囲気が入居者やそのご家族にも大変喜ばれている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>住宅地にある一般家庭を改築した事業所で、庭に樹木や季節の花を植栽したり犬を飼っており、利用者にとって寛げる場所となっている。</p> <p>事業所は家族や親戚で経営している施設であり、柔軟な対応や家庭的な対応ができ、親戚や職員の子ども達が学校帰りに施設に寄り、利用者と遊んだり一緒に食事をしたりして他にはない家庭的な空間づくりになっているほか、近隣の小学生や中学生の社会科学習体験を受け入れたり、職員が高校に講師として招かれている。</p> <p>事業所主催の芋煮会や地域交流会では、子どもから高齢者まで幅広い参加があり、竹トンボ作りや餅つき大会などに、利用者や職員が参加するなど、事業所自体が地域の一員として交流をしている。</p> <p>事業所独自でクリーン作戦と称して年4回、事業所周辺の清掃活動を職員と利用者で行っている。</p> <p>職員同士のコミュニケーションが図られているとともに、職員が元気で明るく利用者に対して笑顔で接しながら家庭的な雰囲気の中で、その人らしい生活ができるように支援をしている。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	業務に入る前に必ず理念を読み上げて、ケアにあり方を確認し実践している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を全職員で話し合い、事業所独自の理念を作成して事務室や玄関、各ユニットに掲示するとともに、職員は朝礼時に唱和して共有を図り、実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所で地域住民と交流できる催しを行ったり、地域の老人会とも積極的に交流するなどの活動をしている。	事業所は近隣の小学生や中学生の社会科学習体験の場として受け入れているほか、職員は高校に講師として招かれている。 事業所主催の芋煮会は、老人会の回覧を通してチラシを配布し、多数の参加を得ているとともに、地域交流会では子ども達から高齢者までの参加があり、竹トンボを作って遊んだり餅つきをしたりして、利用者が地域住民と交流ができるように支援をしている。 年4回事業所独自でクリーン作戦と称して、職員と利用者は事業所周辺の清掃をしている。 天気の良い日は利用者の体調に合わせて散歩に出かけ、近隣住民と挨拶を交わすなどで交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場を利用したり、ホームのイベントに地域住民の方々を招待して、話す機会を作ったり、実際のケアの様子等をみてもらうなどの取り組みを行なっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方や利用者家族、市職員の方に事業所の取り組み、現状の報告をしたり、意見交換の場として活用している。また、特に試食会を行なうなど、よりホームの取り組みを理解してもらうように努めている。	運営推進会議は利用者の家族や市職員、民生委員、老人会長などで2ヶ月に1回開催し、会議録を作成している。 会議では行事報告や事業所の状況報告をしたり、委員と活発な意見交換をしている。 委員から「地域の消防団に協力をお願いしてはどうか」や「地域交流会に利用者と職員が参加してみてもどうか」など、出た意見等を受けて実践をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市のグループホーム協議会の会員となり、市の担当者を含めた会議に参加して、ホームの様子を伝えたり、運営推進会議に参加してもらうなど、協力関係を築いている。	市職員が運営推進会議に出席している。管理者は市役所に月1回以上出向き、市担当者に相談をするなど、事業所の実情やサービスの取組みを積極的に伝えるとともに、情報交換をして日頃から協力関係を築くように努めている。 2ヶ月に1回開催される市のグループホーム協議会に管理者が出席するなど、市担当者とは連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は防犯のために施錠をしているが、日中は日中はいつでも出入りできるように開けている。身体拘束をしないケアがホームの方針であり、社内研修などで共通理解をしてケアに取り組んでいる。	身体拘束排除に向けたマニュアルを作成するとともに、年1回内部研修会を実施し、職員は禁止の対象となる11項目の身体拘束の具体的な行為を理解している。運営規定に「緊急やむを得ない場合を除き身体拘束は行わない」と明示し、管理者は身体拘束について家族等に説明をするとともに、書面で同意を得ている。 玄関や居室は施錠しておらず、ミーティング時に職員で確認しながら身体拘束をしないケアを実践している。 緊急やむを得ない場合に備え、経過観察記録や再検討記録を整備している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について理解し、防止に努めている。全職員に対して掲示板を利用しポスターを貼り理解、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は地域包括センターと連携をとり日頃より日常生活自立支援事業や成年後見制度について意見交換している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、介護支援専門員が説明を行い、不安や疑問点がないか確認、相談しながら理解と納得をしていただけるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内に意見箱を設置している。面会に来た際に直接要望を聞くこともある。 家族会会長を第3者苦情受付窓口のひとつにもしている。	重要事項説明書に事業所と第三者機関の苦情相談受付窓口を明記して、契約時に家族等に説明をしている。 職員は家族等の来訪時や電話で、意見や要望を聴くように努めるとともに、運営推進会議に家族等の参加を得ており、意見や要望を聞く機会となっている。 利用者から食事量の加減や衣服の交換希望についての意見や要望を聴き、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月例会議を行っている。業務での気づきやケアについて話し合いをしている。 職員主催の親睦会も職員の声を聞ける場となっている（年4～6回）	正職員会議を月2回開催しているほか、正職員とパート職員で行う職員会議を月1回開催しており、管理者は全職員に意見や要望を出して貰えるように努めている。 管理者は職員の勤務変更を柔軟に対応するとともに、職員から「職員のロッカー室に冷蔵庫やエアコンを設置して欲しい」などの要望を受け、冷蔵庫とエアコンを設置している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況によって給与に反映されている。業務に対する水準を作り、向上心がもてるような仕組みを検討中である。 職員が職員を称える投票制度を実施し、向上心を持てるように努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修を年4回程度行なっている。全職員を対象として、外部からの講師をお願いし、より専門的な話を聞けるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市のグループホーム協議会の会員になり、同業者との交流、情報交換を行っている。勉強会にも積極的に参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話に傾聴している。笑顔で接することも心がけている。出勤時、挨拶を行い本人が不安にならないよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意見、状況等を考慮して話を聴くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	できる限り本人とも話をして必要な支援に努めている。事前に介護支援専門員と連携を取り情報提供していただいている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に炊事、洗濯、掃除などを行い、力を発揮できる場を作るように努めている。 共に役割を持って生活しているのだと思っただけのよう声かけ、対応に配慮している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームの一方的な面会時間等の設定は行わず、24時間出入りしやすい環境作りを行い、また家族には普段の日常の様子を報告するようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、職場の同僚など面会に来ていただけるように声かけしている。実際に利用者家族以外の来訪も多い。 こちら側から外出する機会はまだまだ少ないのが現状である。	利用者の知人や家族等の来訪時には、居間や居室に案内をしてお茶などを出し、ゆっくり話しができるように配慮をしたり、2ヶ月に1回定期的に来訪する馴染みの理・美容師との連絡調整をしたりして支援に努めている。 利用者がかつて行った公園などを公用車でドライブをしたり、馴染みの衣料品店の買い物に職員が付き添うなど、馴染みの場所との関係が継続できるように支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、利用者同士の仲介役になり、孤立することのないように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを終了しても、その後の状況について情報交換を行ったり、お見舞い、手紙（年賀状等）を送ったりしている。 必要に応じて、相談や支援も行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメント、モニタリングのミーティングを開き、本人の意向に近づけられるように検討している。	職員はアセスメントで利用者の希望や要望を把握するとともに、利用者との日々の関わりの中でコミュニケーションを図りながら情報を収集し、一人ひとりの暮らしの希望や要望を記録して全職員で共有している。 職員は利用者の表情や仕草から思いや要望を判断したり、家族等の来訪時に話を聞くなど、利用者の要望に応じられるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、他の事業所からの情報提供からこれまでの暮らしの把握をしている。入所時に家族にセンター方式シートの記入をお願いしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	必要な場合には、24時間シート（センター方式の書類の一つ）の活用をしている。介護記録に日々の変化を記録している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護支援専門員を中心に職員、家族、本人の要望を確認し、アセスメント、モニタリングを行っている。特に変化が見られない場合でも、3ヶ月に1度は話し合いを行っている。	介護計画は計画作成担当者が利用者や家族等の意見や要望を聴き、介護支援専門員や利用者の担当職員等で話し合いながら個々にそった介護計画を作成している。 毎月モニタリングを実施するとともに、6ヶ月または1年毎に介護計画を見直し、利用者の状態に変化が生じた場合は、現状に即した介護計画に見直しをしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	モニタリング表を中心に、日々記入している個々の記録を、モニタリングに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その状況に応じて、サービス内容を検討している。 (家族の意向と本人の身体的能力が回復し、在宅に戻って生活しているケースがある)。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入所前の生活について聴き取りし、どのような暮らしをしてきたのかを把握している。できる限りその生活に近い暮らしが送れるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を聴いて対応している。家族が病院の付き添いを行う場合もある。	事業所は複数の協力医療機関と連携しており、重度化した場合は主治医との24時間オンコール体制を整えている。 管理者は契約時に利用者や家族等が希望するかかりつけ医を確認し、かかりつけ医への受診は基本的に家族等が対応をしているため、受診後の結果は職員が電話などで確認をしている。 利用者が急変した場合は職員が病院に付き添うとともに、利用者の連絡帳を作成して申し送りをする事で、全職員で共有をしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は不在だが、主治医にその都度相談している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際には、家族、病院とよく話し合い情報提供をしている。特に退院する際には、病院で相談指導を受け適切な対応ができるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、医療関係者に確認し、事業所で対応できるかどうかを職員で話し合い、病院、家族と連携を図りながら支援している。	重度化マニュアルや「重度化や看取りに関する指針」を作成し、契約時に利用者や家族等に説明をしている。 現在までに3人の看取り介護を行っている。 利用者や家族等が希望する終末期の対応については、家族等や医療関係者、職員で話し合いながら支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応について社内研修を行ったり、リスクマネジメント委員会を設置し、定期的に事故発生時対応策を話し合っている。職員全員が参加している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民の方から協力が得られるように運営推進会議で説明を行い、協力体制を構築している。年2回避難訓練を実施している。	消防署の協力を得て夜間想定を含む避難訓練を年2回実施している。 避難訓練後は反省会を実施し、訓練で明らかになった課題について話し合っている。 運営推進会議を通して近隣住民に避難訓練実施のお知らせはしているが、高齢者が多いため参加は得られていない。 事業所の隣地に代表者の家族や親族のほか、近隣に多数の職員が住んでおり、災害時にはすぐに駆けつける体制が整っている。 災害に備えて飲料水や米、缶詰、発電機、ラジオ等を備蓄しているが、賞味期限や品目、数量などを記入した備蓄品一覧表を作成して、管理するまでには至っていない。	災害に備えて賞味期限や品目、数量を記入した備蓄品一覧表を作成して管理することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮した声かけができるよう意識付けするため、月間目標に関連する目標を掲げたり、職員同士で注意し合える環境作りをしている。また、声かけの仕方や場所等、プライバシーを配慮した対応を心がけている。	利用者の尊厳やプライバシーを大切にし、常に職員で話し合いながら利用者の羞恥心や自尊心に配慮したケアに取り組んでいる。 入浴介助は基本的に一人ずつ対応するほか、トイレ介助の際は利用者に小声で話しかけ、利用者の状態に応じてトイレのドアを閉めて職員は外で待つなど、プライバシーを損ねないように配慮をしている。 個人情報に関する書類は事務室の書棚に保管し、各ユニットに置く場合は書棚にカーテンをして情報漏洩に留意をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や思いが言いやすい状況作りや設問の仕方（はい・いいえで答えられるような質問）を心がけている。 言葉で意思表示ができない方の場合、表情や反応を見て対応している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望、体調でその日ごとに過ごし方を決めている。 散歩に行ったり、レクリエーションを行ったり、本人のやりたいことを行なうよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の習慣に合わせて支援できるように本人、家族と相談しながら支援している。 本人に伺いながら、化粧水やクリームをつけたり、外出時等に口紅や服を着替えたりしている。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付けの一部と一緒にやっている。 個々の食べたいメニューの希望を聞き、メニューに取り入れている。	職員は食事介助をしたり、声かけをしたりはしているが、利用者と同じテーブルで食事を摂るまでには至っていない。 利用者は職員と一緒にテーブル拭きや下膳など、利用者の能力に応じて役割を担っている。 正月や雛祭り、誕生会、敬老会などは行事食を提供しているほか、利用者の要望で回転寿司を食べに行くなど、食事が楽しめるように支援をしている。 利用者の家族等や近隣住民から鮭や栗、ぎんなんなどを頂き、旬な食材を味わっている。	利用者と職員と一緒に食事を摂ることについて全職員で話し合い、利用者と同じ食事を楽しめるよう試みることを期待する。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の摂取量を記入して、一人一人の状態を把握している。その人に合った声かけ、タイミングで食事や水分が勧められるように日々努めている。 摂取ができないときは、ゼリーやアイスなど摂取しやすいものに代えて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行うように声かけを行い、本人の能力に合わせて支援している。本人に行なってもらった後は、残食が口の中にないか必ず確認を行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	できる限りトイレで排泄できるよう支援している。 1日の排泄時間を記録して、排泄パターンの把握に努めている。	職員は排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。 職員の声かけや時間を見計らったのトイレ誘導により、利用者の7割程がトイレで排泄をしているほか、リハビリパンツから布パンツに移行できた利用者もいる。 夜間もトイレで排泄ができるように支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症の人には、ヨーグルトや牛乳を毎朝提供したり、1日1回の運動（体操）を心がけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	月～土まで毎日3人ずつ入浴を行い、週2回は入浴できるようにしている。 できることはなるべく本人に行なってもらえるよう支援している。	入浴は週2回を基本としているが、利用者の希望にそっていつでも入浴ができる体制となっている。 浴室は一般家庭と同じ大きさだが、必要箇所に手摺を設置したり、シャワー椅子を配置して利用者が安全に入浴できるように支援をしている。 入浴を拒む利用者に対しては、家族等に声かけをしてもらったり、翌日に再度誘ったりして無理のないように促している。 柚子湯や菖蒲湯で季節感を取り入れて入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人が必要なときに休息できるように畳スペースを作ったり、夜は安心して休めるように本人の生活習慣の把握に努めている。 また、把握した情報と環境の変化、ストレス等に配慮して支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の目的、用法、用量、副作用について引継ぎノートにて確認、理解できている。本人の状態、経過に関する日常の記録は介護記録に記入している。 服薬時は手渡しして、きちんと服薬できたか確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換に得意だった裁縫を楽しめる方やみんなで歌を楽しむ方、それぞれが楽しむことができるように努め、イベント等も企画して実施している。 役割としては、食事のあいさつを担当制にしたり、ADLに応じてテーブル拭きや掃き掃除、洗濯たたみ、洗濯干しなどできる範囲で行っていただいている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見やイチゴ狩り、気の合う入居者同士で外食や買い物等に出かけている。 地域で行なっている輪投げ、ゲートボールに参加、見学したり、幼稚園の音楽隊を見学に行ったりしている。地域行事にも参加している。	天気の良い日は利用者と職員で事業所周辺へ散歩に出かけ、気分転換が図れるように支援をしている。 年間行事計画を立て、2ヶ月に1回程花見や苺狩りなどに出かけている。 職員が付き添って地域交流会へ外出した際には、利用者が輪投げやゲートボールに参加したり、見学したりしているほか、利用者の要望で近隣のスーパーなどにも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、認知症が進行されている方が多くなってきているため、お金を常時所持されている方はいませんが、目的、希望があれば所持できるように支援する。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により電話をかけている方もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭園で花や野菜をとり、飾ったりするなど季節感を感じていただけるような環境づくりを行っている。	庭には樹木や季節の花を植栽し、犬を飼っている。 玄関には観葉植物を置き、利用者が一般家庭と変わらない風景の中で生活ができるように工夫をしている。 各居室へ通じる長い廊下の所々に長椅子や畳敷きのスペースを設置したり、水槽を置いたりして利用者が寛げる空間づくりをしている。 居間やトイレ、浴室などはいずれも清潔に保たれ、利用者が気持ちよく生活できるように配慮をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子をおいたり、畳で休むことができるような場所を設置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人の好みや持ち込んだ家具により、その人らしさが表現されている。落ち着くスペースになるように本人と相談しながら模様替え等を行っている。写真や植木、手紙や作品なども飾っている。	居室はカーテンやベッド、エアコン、箆笥、洗面台が備え付けられている。管理者は使い慣れた品物を持参してもらえよう、利用者や家族等に説明をしている。利用者は家族等と相談して写真や観葉植物、仏壇、椅子などを持参するなどして、利用者好みの居心地よく暮らせる居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋のドアには表札をつけ、共用スペースのトイレ、お風呂には分かるように表示して場所が分かるように工夫している。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の ○ 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが ○ 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と ○ 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある ○ 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が ○ 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が ○ 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム カサブランカ大宮

作成日 平成27年 4月 6日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	34	災害に備えて飲料水や米、缶詰、発電機、ラジオ等を備蓄しているが、賞味期限や品目、数量等を記入した備蓄品一覧表を作成して、管理するまでには至っていない。	備蓄品一覧表を作成し、管理できる。	備品の在庫管理担当者(防災担当)が、一覧表を作成し、管理する。	1ヶ月 (4月16日～5月15日)
2	40	職員は食事介助をしたり、声かけをしたりはしているが、利用者と同じテーブルで食事を摂るまでには至っていない。	職員と利用者が同じテーブルで楽しく食事ができる。	3食のうち1食からでも、職員が利用者と一緒に食事が出せよう、業務の見直し・調整を行なっていく。	6ヶ月 (4月16日～11月15日)
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。